

同窓会会誌

神戸高等商船学校・神戸商船大学・神戸大学海事科学部

Vol. 11



海神会だより

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

同窓会誌「海神会だより」は海神会ホームページ(<http://www.fukae.org/>)の“同窓会だより”からもご覧いただけます。

海事科学研究科長の挨拶

深江に勤務してはや25年が過ぎました。私は、神戸商船大学卒業後、一旦は船会社に就職し、8年半の間、実際の現場での仕事を経験ましたが、1989年に母校に戻ってきて以来、今日まで教員生活を続けることができたことに感謝しています。種々の困難な状況におかれている海事科学研究科ではありますが、研究科長として可能な限りお役に立つことができればと強い決意で職務に邁進しています。

研究について

今年度は、全国で22研究大学等が決定され、神戸大学もその一員として認められましたが、その中の相対位置は極めて厳しい評価となっています。5年後の入れ替え戦に対応すべく神戸大学は、研究大学として研究中心の大学へと変貌しようとしています。海事科学研究科及び海事科学部は、大学統合、大学院重点化そして研究大学と大きな変革に立ち向かい、そのメンバーとして変化に適応し、牽引する必要があります。

大学教員の仕事は、教育、研究、大学運営及び社会貢献と大別され、個人にその比率の設定を任せているのが実態です。今後はこれまで以上に研究の質と量の向上がより強く要求されるでしょう。このような研究の評価指標の変化に対応すべく、自然科学分野はインパクトファクタ付英語論文の執筆が不可欠となります。これに対応する努力の蓄積が、10年先には私たちのライバルである国内外の大学・研究科に対して、大きな差をつけることになると信じています。

大学の研究と国の施策を直結することに些かの躊躇はありますが、「海洋基本計画」の「第2部海洋に関する施策」に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策（平成25年4月）」に海事科学研究科の研究分野・対象が明示されていると考えます。の中には、国内問題や国際問題が包含され、これまでの個人の研究実績を基盤として研究テーマをこの中にもうまく位置づけ、個人又は研究グループで対応することが海事科学研究科の研究の使命と考えます。また、学内及び学外の研究組織と連携して、「輸送の三原則」に続く大型研究プロジェクトの獲得のために、自然科学研究環の新重点チームに2チームを申請し、採択されました。また、2013年11月末には学長裁量枠プロジェクト研究に4件応募しました。このような努力に対しまして海神会会員の皆様にはご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

教育について

国の施策として、国立大学法人に対するメリハリのある支援策を打ち出しています。前述の研究大学もその一環と理解できます。

神戸大学大学院海事科学研究科長 林 祐司

また、大学運営の基盤ともいえる大学運営交付金の配分に関しても、大学改革を推進する国立大学に対して手厚い配分を行う「国立大学の機能強化」プロジェクトでは、プールした110億円の大学運営交付金の重点配分が決定され、既に対象となる18国立大学が決定されています。残る20程度の国立大学が余席を目指して間断なき努力を継続しています。神戸大学も入学制度改革、教養教育の充実及びスーパーグローバル化を目指した提案を文部科学省に提出する予定です。



一方、深江キャンパスにおいては、大講座制の導入により小講座が解体され、教員は個人で多くの学生と向き合うことになりました。教員間の交流が希薄で、また多忙のために学生対応が利害的となり、教育に疲れを感じことがあるのは私だけではないと思います。それらを解消するためには、各教員がより実質的な教育グループに所属するシステムの構築が急務であり、常に複数の教員の目が学生ひとり一人に届くような体制をとる必要があると思います。

私たちは日々、「教育」、「研究」、「大学運営」及び「社会貢献」に参画しながら教員としての人格を向上させています。その持続のために、4本柱の比率に個人差があるものの、決して4本柱を3本、2本、1本とすることなく、4つのバランスをとりながら仕事を実践していく必要があります。前述のとおり教員の孤立が進んでいないのではないかと危惧していますが、教員の孤立を防ぐために、系の存在と教育グループ及び研究グループの存在は重要と考えます。教員の充実した教育・研究体制の構築が、学生の充実した学びを実現し、海事科学研究科の発展を描るぎないものとなると確信しています。

さらに、海事科学部および乗船実習科には、船舶職員養成課程が存在します。これは私たちの学部教育の大きな特徴であり、日本人海技士及び船舶職員が世界における重要な役割を果たすためにその教育を継続・発展させなければなりません。この「高度専門職業人養成である船舶職員養成教育」と「研究基盤を支える学部教育・研究科の研究」の両立が、正に海事科学研究科の教員に求められていると考えます。船舶職員養成課程に関わる学部・研究科のすべての教員にとって、教育と研究の両立に負荷がかかりますが、社会の変化に対応しつつも、守るべきものはしっかりと守り、社会が求める高い能力を備えた人材を輩出する努力を続ける必要があると考えます。

2頁につづく

ご案内と予告・ご案内と予告・ご案内と予告

平成26年度海神会理事会・総会・懇親会の 日時、場所が決まりました。

日 時：平成26年5月24日(土)

理事会会場：総合学術交流棟梅木Nホール、14:00～15:00

総会会場：総合学術交流棟梅木Yホール、15:00～16:30

議題：平成25年度収支決算、平成26年度予算、役員交代、活動報告など

懇親会：総合学術交流棟梅木ホール、16:30～18:00

尚、当日は深江祭と同時開催です。

ご案内と予告・ご案内と予告

平成26年度第9回ホームカミングデイは 10月25日(土)です。

海神会評議会も左記と同会場にて

当日13:00～14:00を予定しています。

詳細は追ってお知らせします。どうぞ、ご参加ください。お待ちしております。

参考申込先
同窓会総会及び懇親会に出席される方はFAX又はメールにて5月10日までにご連絡いただけますようお願い致します。

TEL/FAX : 078(431)6439
E-MAIL:almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

深江キャンパスの座標系

最後に、ここ深江の地には歴史があります。ただ単に過去に立ち戻ろうという懐古主義ではなく、この歴史の確認と今を考える中から、海事科学研究科がここに存在する意義を確認し、これから の未来志向の研究科の展開を考えていく必要があります。

一例ですが、広島大学のメインキャンパスの正門近くに、煉瓦造りの広島高等師範学校の正門が復元・移築されています。これは大学のルーツを示すものであり、学生・教職員は日々これらのルーツを見て、自らのキャンパスの歴史を認識し、今後のキャンパスの将来に想いを馳せることでしょう。

深江キャンパスは、100年間にその姿と内容を大きく変化させています。学生・教職員は、今後の進むべき針路を見出すために、

深江キャンパスの原点と座標系を認識する必要があると考えます。教育、研究及び学部・研究科運営の方向を考えるときに、ベクトルの起点と方向を明確にするために100年間に培われた座標系が必要だと思います。

残念ながら、現在の深江キャンパスには原点を示すものが存在しないか、存在しても、学生・教職員が認識するまでに至りません。座標系の認識もなく、深江キャンパスの進むべきベクトルを示すことは不可能です。精神的な原点及び具体的に示される座標系が、学生・教職員が連携するシンボルとなり、その連携こそが海事科学研究科を世界の海事科学分野の確固たる地位へ導く原動力になると思います。

海神会会長の挨拶

海神会会長を引き受けた半年が過ぎた。この間に見えてきた課題を列挙してみたい。

第一に会の運営資金の原資となる同窓会費が集まらないことで苦戦している。これには各世代ではっきりとした特徴があるようである。同窓意識をいかに高めるかが、重要な問題になっていると思うが、何か良い知恵があればぜひ教えていただきたい。

つぎに2017年は川崎商船学校創設から数えて100周年の年にあたるが、この準備も徐々にはじめる必要がある。先の海事科学部10周年記念式典において関係者が集まり意見交換をしたが、100周年の記念事業の目玉に何を据えるかを明確にすべきであるという貴重なご意見をいただいた。

海事科学研究科として社会が困っている課題を洗い出し、それに沿って社会貢献を進める教育と研究を行うことが社会への貢献になると思われる。

海神会会長 久保 雅義

幸い我々の同窓は海を舞台にした多くの現場で活躍しておられる。本当の問題は現場で発生していることを考えるとこれらの問題点を吸い上げることから始めるべきであると考えている。現場の方々が、問題を解決できなくても、問題点を指摘してもらうことができれば問題解決は研究科のやるべきことである。海事科学部、および海事科学研究科が社会貢献をしている姿を見れば同窓生の誇りも高まり、同窓会活動も活性化するものと信じている。



最後に会長と事務局長が交替して、若返ったので、理事の若返りも必要であろうと考えている。各場所から新任理事の推薦をしていただきたい。

クラス会

卒業50周年&竹増正信名誉教授の白寿を祝う会

2013年11月7日（木）卒業50周年を迎えた機関学科8期生は母校ボンド北側の記念植樹オーリープ前に集合、直前までの雨も日頃の精進のお蔭か集合時には上がり、林祐司海事科学部長と前学部長小田啓二教授の出迎えとご挨拶を頂き、記念写真を撮りました。我々の時代の建物で残っているのは本館（現1号館）と一部の実験室のみで変貌ぶりに驚かされました。

その後、昔の中突堤の入口にある“神戸ポートタワーホテル”に移動、宴会までの間は、今年白寿を迎えた竹増正信名誉教授を交えて囲碁を楽しむ者、メリケン波止場やハーバーランドを散策する組と分かれて一時を過ごしました。当日の出席は、遠く海の向こうカナダ・バンクーバーから田納靖男君も駆けつけ、クラス65名中物故14名・住所不明1名を除く50名のうち30名が参加しました。（クラス幹事山田嘉道は前日から



機関学科8期 山田 嘉道

急病で入院し当日の役回りは、村田晃君が務めてくれました

午後5時30分から13F神戸俱楽部にて祝賀会を行いました。その席で竹増先生へ白寿のお祝いを差し上げましたが先生からも卒業50周年のご祝儀を頂戴してしまいました。

全員に村田君手作りの記念植樹から収穫したオーリープの実（塩漬け）が配られました。宴席の賑わいは続きましたが、あと別室で囲碁の継続と二次会となり、この楽しかった時間もアッという間に過ぎ解散する時間になってしまいました。遠来20名は同所へ宿泊し翌日解散といたしました。



航海学科第8期生卒業50周年記念クラス会

平成25年11月26日・27日にホテル舞子ビラ神戸での宴会・懇親会に23名が参集した。先発組は26日正午に白鷗寮に集合し、旧食堂で寮歌「白波寄する」を合唱してから担当学生の案内でペランダ付きに大改装された寮内を見学した。トイレ付きの1人個室が4部屋で1グループの自炊と談話用の共有スペースを持ち、他学部学生や女子学生、留学生も入寮するとか、驚くこと満載であった。その後深江キャンパスに移動の途中、柔道部深道会の共同墓にお参りし、合葬されている船原君ご夫妻にお花・お水を捧げた。

海事科学部では梅木ホールにて小田啓二前学部長と「海事科学部創立10周年」に当り10年の変遷・概要等について懇談した後、学生食堂で昼食を済ませ、海事博物館では矢野教授よ

航海学科8期 賴岡 吉則

り展示物の詳しい説明を頂いた。更に、3年次に乗船した進徳丸メモリアル、深江丸等諸施設を見学してから、宴会・宿泊地の舞子に向かった。

舞子ビラに全員が揃った所で、18時より最初に物故級友9名を偲び黙祷を捧げた後、米国ワシントンD.C.から遠路参加した三好君の乾杯の音頭で懇親会に入った。50年ぶりに対面する人もおり、各地から参集した出席者より、参加出来なかつた級友の近況等も含め、卒業後50年間の出来事や現状報告があった。途中、叙勲・褒章受賞者計6名の紹介などをさみ、歓談も尽きない様子であったが、続編は各部屋に持ち帰ることで21時前に中締めとした。

翌27日は朝食後自由行動としクラス会を終了したが、主に東京方面からの出席者6名が、東京でボランティアガイドを務める柊君

の案内で京都観光に出発し、東山の一角、若王子山の同志社墓地を訪ね、新島襄・八重夫妻などのお墓参りの後、北京料理「東華采館」で昼食を楽しみ、記念クラス会にピリオドを打った。

参加者	(○印 夫人同伴、 *印 京都観光参加)
青木 建二	青木 治男
岩本 圭二	上野 勝弘
河村 匡二	○金城 辰也
○徳井 博	*徳久 較
*平倉 浩一	三好 雄一
*秋光 正健	胆沢 淳
上山 肇	*大多和治也
田中 宏	○津高宏一郎
*能勢 正純	*格 昌夫
吉田 良一	頬岡 吉則



神戸商船大学18期生 卒業40周年記念同窓会

2013年11月3日(日)文化の日に、午後6時より、新幹線の新神戸駅前にあるANAクラウンプラザホテル神戸にて、神戸商船大学18期生卒業40周年記念同窓会を開催しました。航海学科30名、機関学科17名に、学生時代に講義を拝聴しました恩師4名(竹増正信先生、松木哲先生、井上篤次郎先生、原潔先生)のご臨席を賜りまして、総勢51名の参加の下、盛大に行われました。懇親会の開催前に、記念集合写真を撮影しまして、終了後記念品として配布いたしました。

10年前に同ホテルにて卒業30周年記念同窓会を開催し、早くも10年が経過しました。入学当時の昭和44年は大学紛争真最中であり、全国のほとんどの大学で学園紛争が盛んであり、東京大学の入学試験がなかった年でもありました。神戸商船大学も全学封鎖され、秋を迎えるまで講義がなく、激動の時代に青春時代を迎えました。1学年後期の1月に乗船実習がありましたが、それまで白鷗寮の廊下ですれ違っ際に先輩として挨拶していた学生が同級生であったこともあります。当時白菊の歌や寮歌などに掲載されていました「紅顔可憐な美少年」も30周年記念同窓会時には、会社では上司として企業戦士の最前列において、皆さん鋭い眼差しで精悍な顔付きであったことを記憶しています。

そして、10年後の40周年記念同窓会では、白髪、禿頭、毎日が日曜日で、孫の世話が楽しいなど人生の歴史を刻んだ老人となり、道ですれ違ってもわからない風貌となっていました。しかし、しばらくすると、40年前の紅顔可憐な美少年に戻り、青春時代の話に花が咲きました。

祝賀会では、機関科の伊藤優君の挨拶で始まり、乾杯を松木先生、続きまして恩師の竹増先生、井上先生、原先生から当

卒業30周年記念クラス会

11月23日(土)、航海科28期生の卒業30周年記念クラス会が、神戸市中央区のホテル北野プラザ六甲荘で開催されました。

5月の深江祭(旧「開学祭」)の頃より、今井辰次君の発案によりクラス会開催の企画が持ち上がり、その後、主に松本勝行君のお世話により実現の運びとなつたものです。

当日は、全員集合とまではいかなかつたものの、担任の杉浦先生及び和氣先生にもご出席頂き、関西地区在住者はもとより、関東及び中部地区からの参加者もあり、総勢14名が集いました。折しも、杉浦先生が秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章され、そのお祝いをクラス会としてさせて頂けたことは二重の喜びとするところです。

お二人の担任教官の大変元気なお姿を拝見して近況報告も頂き、また、同期生同士のビジネスマスターの話からプライベートな側面を白状するなど、2次会終了までの4時間半にわたり大いに盛り上がりました。それぞれ社会の第一線で活躍している年代ですが、

既に人生の転機を経験した者や消息がつかめないままの者もあり、30年の歳月を実感した次第です。

宴が進むにつれ学生時代にタイムスリップし、一次会の最後は、神戸商船大学寮歌と白菊の歌を全員で歌い上げ、中締めとなりました。その後、別室に移り二次会となりましたが、宴もたけなわな頃、シンガポール在住の丸山君とスカイプが繋がり、タブレット端末からの特別参加という一幕もありました。



航海学科18期 塩谷 茂明

のお話などを交えた励ましのお言葉も頂戴いたしました。歓談時に、航海学科溝下君の御計らいで、帆船日本丸による遠洋航海時のスライドが披露されました。現在の奥様とは違った若い女性とのスナップ写真、現在と全く風貌が異なる美少年の逞しい実習風景、スクリーンの横に立ち現在の姿と比べるなどの、大笑いの歓談となりました。

祝賀会終了後、二次会として36階に移動し、膝を交えた歓談となりました。次回の50周年は、参加できないかも知れないとのことで、5年後の45周年をこれから計画しようと言うことで、それぞれ帰路に立ちました。

最後になりますが、同窓会の「海神会」から多額のご寄付を頂戴しまして、飲兵衛集団の予算オーバーを懸念していましたが、予算通りに納まり、ここに心より感謝申し上げます。



航海科28期 淺木 健司

「次回は、関東地区で開催」との提案もなされました。しかし、「戸でなければ」との声が圧倒的に多く、暫くは深江祭の時期に連絡を取り合うことを確認して散会となりました。

なお、本会の開催に当たり海神会より多大なご支援を頂きました。厚くお礼申し上げます。

出席者

浅木健司、今井辰次、今井 猛、太田正紀、検見川潔、小林重成、近藤浩昌、島袋浩幸、原田一明、森下康成、實生宣伸、松本勝行、(担任教官) 杉浦昭典先生、和氣博嗣先生





海事科学部創立10周年記念式典を終えて

10周年記念式典実行委員長 小田 啓二

1.はじめに

最初に記念式典の実施について考えたのは、平成23年秋に研究科長／学部長の2期目に入った頃だったと思います。時間をかけて議論した学科改組計画の骨子がほぼまとまり、説明概要や補足資料の整備やカリキュラム概要を詰める段階に入っていました。このままスムーズに進むと、平成25年4月に新学科体制がスタートし、9月に任期満了となり、直後の10月に大学統合・海事科学部創立10周年となりますので、周年記念事業をすべきではないかと気づきました。

一方、平成22年度の全学共通科目である教養原論の中に「神戸大学の成り立ち」があり、11学部の学部長が順番に各学部の歴史を紹介するという科目でした。この準備も含めて、前年度から川崎正蔵先生の伝記や関連資料を読むとともに、海事教育の歴史について勉強していました。この時に、創基100周年に当たる2017年（平成29年）には在職中である（つまり、事業に参加することになる）ので、学部長在任中にこのアクションについてもリガーをかけておく必要があると考えていました。

このような背景から、毎年「神戸大学ホームカミングデイ」が開催される10月第4土曜日に周年記念事業に関するイベントについて検討を始めることに致しました。

2.式典までの準備

平成24年4月頃、神戸大学基金のことで大学本部の社会連携課を行った際、周年事業について相談しました。「統合10周年の記念事業を大学（本部）主体でやるべきではないか」と申し入れましたが、後日、農学部・医学部も統合の周年記念は実施していないという回答でしたので、結局私たち（海事科学部）で企画・実施することを決断し、学長にもその旨を報告しておきました。

次のステップは、記念式典の目玉を何にするかでした。平成20年11月に実施した創基90周年記念式典では、（株）商船三井会長（当時）鈴木邦雄氏の基調講演と元ロッテオリオンズの村田兆治氏の特別講演でした。そうした中で色々と考えた末、平成24年1月に国際海事機関（IMO）事務局長に就任された関水康司氏の招聘を思いつきました。現副研究科長の小林先生と関水氏が大学同窓生であることから、以前にも一度本学部で講演して頂いたこともあります。国内だけの問題にしがちな我が国の海技者教育だけではなくて、世界の海事教育の在り方や、もっと広く世界の海事社会の動向について教示頂くことは、海事科学部の今後10年を考える上でも重要だと思います。早速、小林先生にコンタクトを取って貰いました。国土交通省も近い時期（平成25年10月頃）に招聘を企画されたようで、IMO事務局長秘書からは両者で調整するよう依頼がありました。なお、式典当日の関水事務局長のお話しの中では、国交省での講演の前に（時間があったので）神戸に来た旨の発言がありましたが、私たちの申し出の方が国交省より先であり、その後の調整や来日期間中のケアについても私たちが主導したという事実を披露させて頂きます。

式典開催を決断した時にもうひとつ決めていたことがあります。それは司会を海事科学部1期生の斎藤裕美さん（毎日放送）にお願いすることでした。創基90周年では当時副研究科長であった小生が担当しましたが、それに習って内田先生にお願いするより、はるかに華やかさが増します。平成24年10月のホームカミングデイでは、午前中の全学のイベントの司会を彼女が担当しており、この時に1年後のアボを取っておきました。

残った課題は10年を振り返る内容の盛り込みでした。当初、歴代学長・学部長の先生方に順番にスピーチして貰うことを考えていましたが、新学部の立ち上げと整備に大変な努力をされました初代学部長西田修身先生が逝去されておられますので、スピーチだけでは西田先生のご尽力を紹介できません。そこで、色々と考えた末、最終的には「10年の歩み」というコーナーにして、その中で先生のご功績を紹介するとともに歴代学長・学部長の先生方に思い出等をお話して頂くという形式に致しました。



10周年記念式典実行委員長 小田 啓二

平成25年度に入ると、式典の案内、記念誌刊行、舞台・音響設備の確認と依頼、祝賀会の内容、経費処理など具体的な作業に入ることになります。このため、事務部との協働体制が必要なので、事務長、企画係、総務係に加えて、ホームカミングデイを担当する学生係、経理担当の会計係からもメンバーを出して頂き、副研究科長、広報・社会交流推進委員会からの教員と合わせた実行委員会を発足させました。

5月の連休明けからの案内状送付先の確認から始まり、記念誌の原稿依頼、年表の作成、式典の進行案（舞台設定含む）の作成等の作業が続きました。また、涉外としては、歴代学長・学部長への依頼や文科省への来賓出席依頼がありました。何と言っても関水事務局長の招聘について、秘書との連絡・国交省との調整という時間のかかる準備を小林先生にお願いしました。国交省からは「大臣並みの待遇」と言われ、色々苦労致しました。

準備は順調に進み、あとは確認のみとなっていた1週間前に、大型の強い台風27号の接近が危ぶまれる状況になってしまいました。学部長就任（平成21年）直後の新型インフルエンザ蔓延によって深江祭は延期、同年12月の六甲登山も雨で中止、翌年の深江祭は大雨で深江丸出航中止…、と天候等には恵まれていませんでしたので、「最後もこれか」と自分の不徳と行きの悪さを反省していました。

記念式典はホームカミングデイの一環としてのイベントであるため、大学本部の（ホームカミングデイの開催か中止か）決断に従わざるを得ません。従って、10月24日（2日前）正午頃の台風情報により行われる決定を待って、ウェブサイト上でお知らせすることになりました。この段階では、もし中止となった場合でも、関水事務局長は来日（来神）されておられれば、本部には相談・報告せずに、学内で集まるメンバー（教職員と一部学外者）で講演会か座談会とすること、及び300人分のお酒で大宴会（残念会）をすることを内心決めておりました。

こうした私たちの熱い想いが台風を押しやったのか、進路が南に曲がり、無事開催できることになり、これでようやく私の仕事が一段落したという次第です。

3.式典の内容

式典は斎藤さんの司会で、福田学長による式辞、林海事科学部長による挨拶、文部科学省高等教育局長布村幸彦氏の祝辞（視学官金子氏が代読）の後、関水IMO事務局長による基調講演「Sustainable Maritime Transportation」と「海事科学部10年の歩み」という順でした。詳細は紙面の都合上、本稿では省略させて頂きます。

海事科学部ホームページ

(<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/news/2013/20131029.html>)

及び神戸大学ホームページ

(http://www.kobe-u.ac.jp/topics/top/t2013_10_26_03.html)

をご覧ください。

4.今後10年に向けて

関水事務局長の基調講演では、海運におけるクリーンエネルギー源や低硫黄燃料油の必要性、北極海航路開通に関する問題解決と激変への対応、そして途上国への技術協力など、私たちが取り組むべき課題を指摘して頂きました。それは神戸大学としての責務であり、世界海事大学（WMU）との連携の推進にも言及されました。これらの示唆は今後海事科学部が一層発展するための大きなヒントとなるはずです。

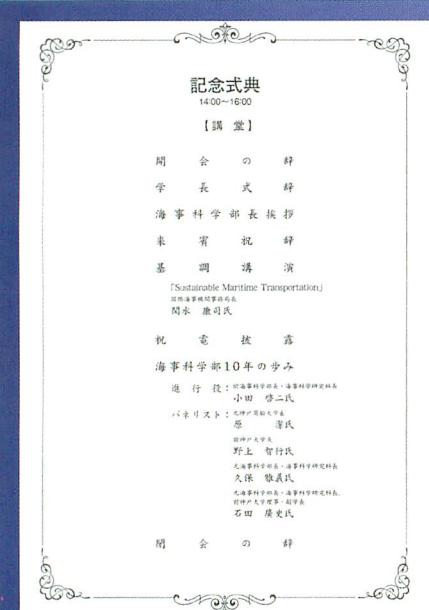
最後になりましたが、祝賀会で多くの方々から質問を頂戴しましたので、もうひとつの周年記念である「創基100周年」に関する動きをお知らせしておきます。75周年記念事業の中の記念誌編纂が遅れたことは聞いており、100周年では早めの準備が必要であると伺っておりました。そこで、9月に海神会会长久保先生と本

件について相談し、今回の10周年記念式典に参加される多くのOBや招待者の方々からの意見を伺うことにしました。どのタイミングでどのような手順で進めるか、十分に練っておく必要があると考えています。今回來学される機会を利用し、鈴木邦雄相談役（商船三井）はじめ、三隅田様、廣田様、森本様、鏡様はじめ多くの貴重なご意見を伺うことができました。総じて、「何のために行うのか皆が納得するよう、目的を明確化する必要がある」というご意見だったと思います。今後、学部内で十分検討し、海神会と相談しながら、適切な形でキックオフしたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

謝辞

この海事科学部10周年記念式典は、一部刈屋奨学金の支援の下で行わせて頂きました。ご寄付頂きました刈屋澄世氏（N13）に深く感謝申し上げます。

また、企画係杉本さんには、実行委員会の中心メンバーとしてほとんどの作業をマネジメントして頂きました。彼女の努力無しでは本会は成功しなかったと思います。事務部職員も含めて謝意を表します。



神戸大学 福田学長挨拶



神戸大学長 海事科学部部長の方々と



記念式典 記念講演



祝賀会鏡割り

海神会支援の部活動報告

1. 支援金の使途 2. 部員数 3. 活動状況 4. 海神会へ一言

男子端艇部(主将:新宅 健人)

海事科学部海事技術マネジメント学科機関分野3年

- 連盟会費・遠征費の補助
- 28人(1年:7人・2年:6人・3年:8人・4年:7人)
- 平成25年度11月2日(土)に行われた西日本新人カッター競技大会では、4位という不本意な結果を残してしまい、部員一同反省、練習を一から見直して、来年度行われる全日本カッター競技大会では、より良い成績を収めるため、日々練習に励んでおります。また、今年度は昨年度行くことの出来なかった巡航に行き、瀬戸内海の島々を巡りながら海の楽しさや恐さ、帆走技術の向上等様々な経験をしてきました。
- 海神会に御支援して頂き、心より感謝申し上げます。支援金を有効に活用し、より一層精進して参りますので、これからも御支援の程宜しくお願ひ申し上げます。



硬式野球部(主将:吉村 健吾)

海事科学部海事技術マネジメント学科機関分野3年

- 大会費(年2回のリーグ戦費)
- 13人(1年:3人・2年:7人・3年:3人)
- 2012年秋季リーグ戦「6位」(0勝10敗)
2013年春季リーグ戦「5位」(2勝8敗)
2013年秋季リーグ戦「6位」(0勝10敗)
- 海神会の皆様からのご支援ありがとうございます。
今後も海神会の皆様からのご支援に応えられるよう、リーグ戦で上位に入れるよう努めさせていきたいと思います。
今後ともよろしくお願いいたします。



茶華道同好会(主将:入江 絵莉衣)

海事科学部海洋ロジスティクス学科3年

- 全ふくさ等の共同備品購入及び御稽古の先生への御月謝代の一部
- 3人
- 月に2~3回ほど、大学会館の和室にて師範の先生に来て頂き、茶道あるいは華道の稽古を受けています。一見難しそうに思える茶華道ですが、先生が丁寧に教えて下さいますので、初心者の方でも安心して参加することができます。実際、部員の過半数は毎年初心者です。部員の稽古以外にも、お茶会を開催し、より多くの生徒や教職員の皆様にも茶道の楽しさを広めていく計画しております。茶華道は一生続けることのできる大変になる習い事です。なかなか多くの部員が集まりませんが、今後とも私たちが継続し、この伝統を微力ながら受け継いでゆきたいと思っております。
- 支援に対しまして部員一同心より感謝しております。今後とも精進して参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



女子端艇部(主将:古市 夏海)

海事科学部海事技術マネジメント学科機関分野3年

- 連盟会費・活動費
- 11人(1年:3人・2年:4人・3年:4人)
- 第24回大阪港カッターレース「準優勝」
第57回全日本カッター競技大会「準優勝」
第59回西日本新人カッター競技大会「第3位」
- いつも温かいご支援をありがとうございます。卒業生の皆様のおかげで今の恵まれた練習環境があることを忘れず、次回の全日本大会では優勝を目指し部員一丸となって練習に励みます。今後ともご支援をよろしくお願ひします。



オフショアセーリングクラブ(部長:山中 智仁)

海事科学部海洋ロジスティクス学科2年

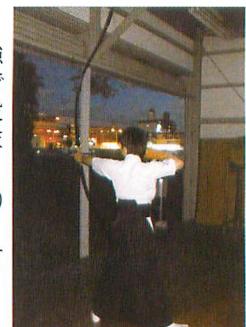
- クルーザーヨットの整備・修繕費
- 59人(1年:31人・2年:10人・3年:9人・4年:9人)
- 今年度はいくつのレースに参加しました。その中でも注目すべきは、10月にフランスで開催された世界大会(Student Yachting World Cup)です。この大会は、昨年度の全国大会(ANIORU'S CUP)に優勝することで参加権を獲得しました。また、5月に行われた神戸まつりヨットレースではクラス優勝、8月の紀伊水道レースでは3位入賞することができました。
- 今年もご支援ありがとうございます。今年は例年をはるかに上回る新入部員に恵まれました。年度末に開催される全国大会で優勝し、来年も世界大会に出席できるよう、部員一同励んでいます。今後もご声援よろしくお願ひします。



弓道同好会(主将:入江 絵莉衣)

海事科学部海洋ロジスティクス学科3年

- 連盟会費・的紙等の共同備品購入費
- 8人
- 初心者、経験者ともに己の精神を強固にすべく弓道場にて稽古に励んでおります。昇級昇段審査にて級、段の取得にも臨みたいと考えております。
- 海神会よりご支援いただき、大変有り難く思っております。
支援金を有効活用し、稽古を続けて参りますのでよろしくお願ひ致します。



会計報告

平成25年度 第10回総会式次第

開催日時:平成25年5月25日(土)15:00~16:30

開催場所:学内総合学術棟 1F 梅木Yホール

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選出
5. 議案

第1号議案:平成24年度事業報告、収支決算及び監査報告について

第2号議案:平成25年度事業計画及び収支予算案について

第3号議案:役員(会長、理事、監事)の選任について

6. 小田啓二海事科学研究科長より海事科学部の現状について
7. 各支部の活動報告
8. 事務局報告
9. 閉会

平成24年度 海神会 収支決算書

(単位:円 平成24年4月1日から平成25年3月31日迄)

科目	24年度決算額	25年度予算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	6,165,000	6,480,000		
2.雑収入	661	500		
当期収入合計(A)	6,165,661	6,480,500	314,839	
II.支出の部				
1.事業費				
総会経費、会誌発行、送料等	1,292,517	1,315,000	22,483	
HP維持、クラス・学部支援等	1,203,480	1,455,000	251,520	7,17,27,37期生
関係団体、支部・部活経費等	1,395,725	1,445,000	49,275	
小計(a)	3,891,722	4,215,000	323,278	
2.管理費				
人件費、会議費、交通費等	1,701,080	1,485,000	△ 216,080	
印刷費、通信費、消耗品等	111,010	100,000	△ 11,010	
事務費、光熱費、雑費等	640,956	470,000	△ 170,956	
小計(b)	2,453,046	2,055,000	398,046	
3.予算費(c)	77,510	210,500	132,990	会費返納(3名分を考慮)
当期支出合計(B=a+b+c)	6,422,278	6,480,500	58,222	
次期繰越収支差額(C=A-B)	△ 256,617	0		

当期余剰金処分案	平成24年度
平成23年度前期繰越金	4,452,721
当期繰越金	△ 256,617
次期繰越金	4,196,104

*収支決算書並びに予算書に於いて
疑問点がありましたら
事務局までお問い合わせください

平成24年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成24年4月1日から平成25年3月31日迄)

科目	24年度決算額	24年度予算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息	185,410	100,000	85,410	定期預金利子
小 計	185,410	100,000	85,410	
前年度繰越収支差額	30,585,616	30,585,616	0	
合計(A)	30,771,026	30,685,616	85,410	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	537,592	500,000	△ 37,592	モデルショップ搬入
収支合計(B)	537,592	500,000	△ 37,592	
次期繰越収支差額(A-B)	30,233,434	30,185,616	47,818	*下記(3)参照

預かり金処分内訳	平成24年度
預かり金繰越合計	2,062,594
当期支出合計	537,592
次期繰越金	1,525,002

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである

(注1) ¥ 28,000,000 は基金として置くものである

(注2) 預かり金は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された前期迄の預り金であり、海事科学部からの要請に基づき、海事科学部学生の自治と厚生関係を目的として支出するものである。

(注3) 繰越額には左記預かり金 ¥ 2,062,594 を含んでいる。

平成25年度 海神会 収支予算書

(単位:円 平成25年4月1日から平成26年3月31日迄)

科目	25年度予算額	24年度決算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	6,480,000	6,165,000		
2.雑収入	500	661		
当期収入合計(A)	6,480,500	6,165,661	314,839	
II.支出の部				
1.事業費				
総会・会誌発行・送料等	1,315,000	1,292,517	22,483	
HP維持・クラス・学部支援等	1,455,000	1,203,480	251,520	8,18,28,38期生
関係団体・支部・部活活動費等	1,445,000	1,395,725	49,275	
小計(a)	4,215,000	3,891,722	323,278	
2.管理費				
人件費・会議費・交通費等	1,485,000	1,701,080	△ 216,080	
印刷費・通信費・消耗品等	100,000	111,010	△ 11,010	
事務用品・光熱費・雑費等	470,000	640,956	△ 170,956	
小計(b)	2,055,000	2,453,046	△ 398,046	
3.予備費(c)	210,500	77,510	132,990	
当期支出予算差額(B=a+b+c)	6,480,500	6,422,278		
次期繰越収支差額(A-B)	0	△ 256,617		

平成25年度 海神会 特別会計 収支予算書

(単位:円 平成25年4月1日から平成26年3月31日迄)

科目	25年度予算額	24年度決算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息	100,000	185,410	△ 85,410	
小 計	100,000	185,410	△ 85,410	
前年度繰越収支差額	30,233,434	30,585,616		
合計(A)	30,333,434	30,771,026	△ 85,410	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	1,525,002	537,592	987,410	
合計(B)	1,525,002	537,592	987,410	
次期繰越収支差額(A-B)	28,808,432	30,233,434	△ 1,425,002	

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである

(注1) ¥ 28,000,000 は基金として置くものである

(注2) 今年度支出予算額の ¥ 1,525,002 は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された預り金で、海事科学部へ寄付予定。



第31回白鷺杯争奪ゴルフコンペ

第31回白鷺杯争奪ゴルフコンペが、平成25年10月10日(木)、垂水ゴルフ倶楽部(神戸市垂水区、パー70)で開催されました。

当日は、気温29.7℃、湿度62%という夏日の中、アウト6組、イン6組の46名が、ダブルペリア方式による18ホールストロークプレーで熱戦を繰り広げました。



プレー終了後、倶楽部ハウスにて表彰式と懇親会が執り行われました。今回は5N高田哲夫さんが12番ホールでホールインワンを達成されたので、パーティー代を全額負担していただき盛大に行われました。優勝は若手の20E寺本好廣さんで、アウト50、イン47、グロス97、ハンドicap26.8、ネット70.2の成績でした。

成績上位者は次のとおりです。

		アウト	イン	GROSS	HDCP	NET
優勝	20E 寺本 好廣	50	47	97	26.8	70.2
準優勝	10N 堀田 時彦	46	40	86	15.2	70.8
3位	10E 小林 通宏	45	43	88	16.3	71.7
4位	13N 杉元 隆司	55	47	102	30.3	71.7
5位	13N 中家 修	43	42	85	12.8	72.2

ベスグロは14Eの手島浩二さんで、アウト40、イン30、グロス80の見事な成績でした。

毎回各方面から支援をいただいておりますので、ここに紹介と御礼を申し上げます。

ロマン会様、坂本善正様(14E)からは多額の寄付、余田光男様(5N)からは有馬大黒屋佃煮、三浦敏夫様(1E)からはMCCカレーセットをそれぞれ格安の価格で提供していただいております。ありがとうございました。

また、赤井勝義様(12E)、竹入弘様(14E)、稻岡秀昭様(16E)には背広幹事として、朝早くから受付、写真撮影、懇親会の段取り等手伝っていただいております。ありがとうございました。

来年も10月中旬頃に垂水ゴルフ倶楽部で開催する予定です。同窓生の皆様の多数の参加をお待ちしております。

以上



外国航路よもやまばなし 第4回目

7. ミシシッピー河へ

5月4日早朝ヒューストンを出港し、ニューオリンズに向かう。同日夜半にミシシッピー河の河口につき、水先人が乗船してミシシッピー河をのぼり始める。幾曲がりにも、曲がりくねった河を遡り航行すること約8時間でニューオリンズに着いた。着いてみると、会社からの連絡があり、ニューオリンズで鋼材揚げきり後はニューオリンズより約100哩上流のバトルージュに向かい、そこで日本向けの大豆を積むようにとのことであったので、5月10日、バトルージュむけニューオリンズを出港してあと1時間でバトルージュに着くというときに急に予定が変更となり、ブラジルのリオグランデとポルタアレグレに行き、そこで小倉向けの大豆を満載せよ、とのことで、早速河の中で反転してニューオリンズに帰り、そこでブラジル行きの燃料、清水、海図その他の必要物品を搭載して、5月11日朝、ブラジルむけ出港した。ここでミシシッピー河について少し述べてみると、この河の河口から約100哩遡るとニューオリンズにつき、そこから更に100哩遡るとバトルージュに着く、大型船が航行できるのは、バトルージュまでで、河口からここまで川幅は略1,500メーターであり河口からバトルージュまでの河の中に10,000トン以上の船が常時50~100隻いる。バトルージュより上流はずいぶん長く五大湖やシカゴまで続いている、貨物輸送は大型、小型の船によつて運ばれている。

今回の航海は、天候に恵まれ、河口からニューオリンズ、ニューオリンズからバトルージュまでそれぞれ8時間ですんなりと航行出来たが、冬期になると河が増水して流れが強くなり、濃霧が発生し、航行は極めてむづかしくなり、河口付近の海面と河の中一面で天候回復までの碇泊船が多く、最悪の場合は、河口からニューオリンズまで10日もかかることもあり、衝突事故も多いが、冬期を除けば、視界も良く河の流れもゆるやかになり航行し易くなる。この河、大型船の出入港できる街といえば、ニューオリンズとバトルージュだけでもそれ以外には簡単な穀物や石炭の積地があるだけで積荷のないときは殆ど人はいなく河の周辺はただ広漠たる平原で、はるか前方から走ってくる船は、まるで田園のなかから船が浮かび揚がつてくるような感じがする。しばらく遡つて行くと遙か向こうに高層ビルディングや大きな橋が見え始める。これがニューオリンズである。何回かニューオリンズに入港しているうちに、西部劇にでてくるような古い型の船で両側に水車をつけて走る外輪観光船とすれちがつことがある。その船のデッキではカワイコーチャンたちがパーティーを開いて騒いでおり、本船乗組たとお互いに手を振りあって行き過

神戸高等商船航海科43期生 村田 悅雄

ぎた。これもまた楽しい一時であった。

かつて、わが社の新造船、あじあ丸(8,600トン)が処女航海で、バトルージュから下航中にニューオリンズを少し下ったところで、300トン位のガソリンバージと衝突し、大火災を起こしたことがあります。私もその後あじあ丸の船長を二回務めたことがある。



その後、この衝突事故のあった付近を何回か通ったことがあるので、たまたま乗船してきた水先人にこの事故のことを話したところ、その水先人が言うのには、「実は、その事故の時に水先人として、あじあ丸を操船していたのは、自分であった。」と言って、事故当時のことを詳しく説明してくれ、あじあ丸がニューオリンズの橋の下を通り過ぎた直後衝突した。その日は正月の2日の夕方で半分霧がかかり、またガソリンバージの船長は酒をグデグデに飲んでいたことなどしみじみと話し、あなたがその後あじあ丸の船長を務め、ここで会えるとは、全く奇しき巡り合わせというものだ。記念に帽子を交換しようといつて、お互いの略帽を交換し記念写真を撮って別れた。この衝突火災事故は、あまりにも大きな事故だったので、いまでもバトルージュの記念館に写真が保存されている由。

ニューオリンズの波止場のすぐ近くにトップ・オブ・マートという3階建てのビルがあり、その最上階はレストランになっていて、最上階だけがしづかに廻り、一時間くらいで360度廻るようになっており、食事をしながらニューオリンズの全景を楽しむことができる。そのビルの近くにカナルストリートという繁華街があり、そこを少し奥に入るとフレンチコーナーという飲食店街がある。そこでザリガニの塩ゆでにレモンをかけて食べたが、結構おいしかった。懐かしい思い出である。

第12号につづく

